



◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

今号は、初開催の「ハリヨ保全に関する交流会」や、地域の高校生と企業が協力して商品開発した「イタセンパラの和菓子」などの新しい情報が掲載されています。また、みなさんからのイベント活動報告も徐々に軌道に乗ってきました。今回は、環境省中部地方環境事務所さん、ESD クオリアさんからの報告です。ぜひご覧くださいね。

〔岐阜県大垣市 加賀野八幡神社、岐阜県山県市 ハリヨ公園、WEB会議〕

2022年11月24日(木)

ハリヨ保全活動に取り組む民間団体および行政機関の方々と ハリヨ保全に関する交流会を開催しました

初開催！

木曽三川流域生態系ネットワークの指標種のひとつである「ハリヨ」の保全に取り組む民間団体及び行政機関を対象に交流会を開催しました。

第1回となる今回は、主なハリヨ生息地である岐阜県大垣市の加賀野八幡神社と、山県市のハリヨ公園をオンラインでつなぎ、WEB参加者も交え、各団体の活動内容紹介や活動にあたっての課題などについて自由に意見交換を行いました。

交流会には、海津市ハリヨ保存会、はりんこネットワーク、ヒダサンショウウオ研究会、池田町教育委員会社会教育課等、様々な団体・行政機関が参加し、鵜の食害対策の事例や、保全団体と行政機関との連携などについて情報交換し、岐阜大学工学部の篠田先生（氾濫原・湧水帯生態系ネットワーク推進部会長）より総括をいただきました。

今後は、このような交流イベントを地域主体で実施していけるよう、事務局で開催マニュアルを作成する等、保全活動団体の支援につなげていきたいと思ひます。



▲加賀野八幡神社（岐阜県大垣市）の会場から参加のみなさん

▼ハリヨ公園（岐阜県山県市）



ご参加の方々のご意見を一部ご紹介します。

- ◎ハリヨ団体間で、それぞれの活動地点での事例を共有できたのはよかったと感じた。意見交換がより活発になり、より突っ込んだ話ができてよかった。
- ◎「藻」を始めとして、各団体で困っていることや対策を少しでも話し合えてよかった。
- ◎今回、面識のなかった団体との交流を持ててよかった。特に加賀野八幡神社周辺での実際の活動の様子を知ることができてよかった。

エコネットカフェ準備の様子

準備から応援団同士の交流が始まっています

1月22日に開催のエコネットカフェで、現地からハリヨ調査の実演をしてくださる、岐阜県立大垣東高等学校理科数科ハリヨ班のみなさんの準備の様子をご紹介します。

エコネットカフェ開催当日に雨が降った場合でも、動画を見ていただきながら発表できるように、昨年の12月4日に雨天時プログラム用の撮影を行いました。

撮影当日は、11月24日に開催された「ハリヨ保全に関する交流会」にて「ハリヨの調査方法や機材を知りたい」とおっしゃっていた活動団体の方々も訪れ、熱心に撮影の様子を見学されていました。団体同士が交流しつながら、みなさんの活動がより良くなるよう応援していきます。

エコネットカフェの様子は次号でご紹介します。お楽しみに！



▲全体交流の様子。ハリヨ保全のこれからについて、鵜の食害対策の事例や、保全団体と行政機関との連携などについて情報交換を行いました。

〔一宮市尾西歴史民俗資料館及び木曽川河川敷〕

環境省中部地方環境事務所さんより活動報告です！

2022年12月3日(土)

「第13回 イタセンパラの勉強会」でセミナーと現地見学を開催！

木曽川水系イタセンパラ保護協議会は、冬日和となった12月3日、イタセンパラの勉強会を開催しました。

昨年は、コロナ感染拡大に配慮し、オンラインに限定して開催しましたが、今年は一宮市尾西歴史民俗資料館でセミナーを聞いた後、木曽川河川敷で現地の見学も行いました。小学生から熟年の方まで、オンライン参加も含め、52名の多くの市民の方が参加され、協議会が取り組むイタセンパラ保護活動への理解を深めていただきました。

現地では、人工ワンド等を見ながら、環境遷移のメカニズムを説明するなど、専門的な内容もありましたが、実際に魚やえび等を捕獲して触れていただくなど、小さな子ども達も目を輝かせて楽しんでいました。



▲セミナーの様子



◀現地見学の様子
ワンドで魚を捕まえています

「第9回 羽島市イタセンパラ塾」が 開催されました

木曽川水系イタセンパラ保護協議会の取組みの一環として、木曽川の羽島地区ワンド(猿尾堤)にて、第9回羽島市イタセンパラ塾が開催され、羽島市の親子を対象に48名の方が参加しました。



▲捕まえた魚を図鑑の写真と見比べてみる

当日は、木曽川の自然や生きもの、イタセンパラの生態や外来種問題等について学習した後、木曽川のワンドに移動して、ワンドの環境を改善する工事の学習や生き物の採捕体験、木曽川の水質調査体験を行いました。

ワンドの生き物の採捕体験では、ワンドにいる生きものを網で捕まえて種類を調べました。ゼゼラなどの在来種が多くいるものの、ブルーギルなどの外来種も侵入していることを学びました。



▲色見本と見比べて川の水質を判定

水質調査では、木曽川の水を汲んだバケツにスプーン一杯のジュースを混ぜた時の水質を調べ、木曽川の水がきれいなこと、飲み残しを川に捨てると水が汚れてしまう事を学びました。イタセンパラの生息地であるワンドについて、より身近に感じてもらった貴重な体験となりました。

「学生環境会議2022」を 開催しました!

ESDクオリアさんより
活動報告です!

ESD クオリアと岐阜市は、毎年高校生と大学生を対象に「学生環境会議」を行っています。

今回は「里山と生物多様性、そして SDGs」をテーマに岐阜大学教授による講義を聴いたのち、グループに分かれディスカッションを行いました。

日本は、木材の多くを外国からの輸入に頼っていますが、これは輸入相手国での森林伐採を助長しているといえ換えることができます。そこで、国産材を有効利用する方法を皆で考えました。薪やおもちゃなどの直接的な利用だけでなく、森林を子どもの遊び場にするという、森林の価値を高め保全につなげるための意見も出て、生物多様性の損失という環境問題を自分ごととして捉えた、活発な議論ができました。



▲多くの学生のみなさんに参加していただきました!

羽島高校と地元企業が協力して商品開発 イタセンパラの和菓子(浮島) 販売中!



▲イタセンパラの焼き印や包装紙は、羽島高校の生徒の皆さんがデザインしました。昔のようにたくさんのイタセンパラが泳いでくれるようお願いが込められています。

シールのついた商品を
購入すると
市のイタセンパラ保護活動の
資金が集まる仕組みに
なっています。



羽島市の和菓子の老舗「御菓子処 兎月園^{とげつえん}」さんと、岐阜県立羽島高校さんが協同で開発したイタセンパラをモチーフにした和菓子「ねえ〜知ってる? ITASENPARA (板鮮腹)」が販売されました。羽島を流れる木曽川下流域は、イタセンパラの数少ない生息地。このお菓子を味わうことで、多くの人に郷土の宝物(イタセンパラ)に興味を持って頂けるきっかけになれば...という思いで、羽島市市民協働部生涯学習課さんや世界淡水魚水族館アクア・トトぎふの池谷館長様の協力のもとに作られました。

味は3種類。オスの婚姻色をイメージした紅紫色(安納芋の芋餡)、メスの婚姻色をイメージした黄色(バニラ餡)、木曽川下流域の水の色や植物帯をイメージした緑色(抹茶味小豆のつぶ餡)です。

兎月園店頭または世界淡水魚水族館アクア・トトぎふ内のショップで購入できます。ぜひご賞味ください。



イベントなどの情報発信をFacebookで行っていますので
ぜひこちらをご覧ください ➡

<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



掲載用情報を募集しています!

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信しています。生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、応援団の皆さんからの投稿・情報提供を随時募集中です。下記お問い合わせ先まで、お気軽に情報をお寄せください。(なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。)



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会(事務局: 国土交通省木曽川上流河川事務所)は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の市民団体・自治体・有識者・河川管理者等によって、平成 26 年度に設立されました。

本協議会では、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う(または賛同する)、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ <<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/econet/index.html>>

木曽三川流域エコネット応援団 事務局: 国土交通省 木曽川上流河川事務所 調査課 (岐阜県岐阜市忠節町 5-1)
【問い合わせ先】 木曽川上流河川事務所 調査課 e-mail: cbr-kisojyo-chosa@mlit.go.jp / tel: 058-251-1125 / fax: 058-251-1150

